

平成17年度（2005年度）学校自己評価

年度末評価結果

学校自己評価委員会

本校では、教育目標及び年度重点目標を設定し、より良い学校づくりを推進しています。年度重点目標の具現化に向けた日常の教育活動について、自ら点検をし、改善すべき点を明らかにするとともに、その改善策、更なる発展をめざしての向上策を作成し、教育実践をしています。

今年度の評価及び次年度に向けた改善策・向上策は次のとおりになっています。より具体的な対策については、校内担当分掌を中心に鋭意検討しております。広く皆さんからご意見をいただき、本校の教育活動の充実と発展を図っていききたいと思います。ご意見等ございましたらE-mailでお寄せ下さい。

□ 教育目標

- (1) 自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
自主的・自律的に学校生活に取り組む校風、態度を形成する。
生徒個々の学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。
基本的生活習慣の確立を図り、倫理観や規範意識を高める。
- (2) 一人一人を大切にし合い、夢や希望を育み、個性を伸ばす。
基礎・基本を確実に習得し、創造性を高め、個性を伸ばす。
夢や希望、能力・適性、進路に応じた目標をもち、自己実現を図る。
向上心をもって共に学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- (3) 心豊かで、たくましく生き抜く人間となる。
幅広い学習体験や特別教育活動に取り組み、人間性と社会性を育む。
人間尊重の精神、信頼と友情に基づく連帯感を育む。
地域社会の要望に応え、社会に貢献できる人間となる。

□ 中期重点目標

梓川高校及び梓川高校生の存在意義の確立

- (1) 「地域から信頼される学校」を目指して、「地域に開かれた学校づくり」を実践し、地域に根ざした梓川高校としての存在意義の確立を図る。
- (2) 梓川高校生の一人一人が将来への目標を掲げ、自主・自律的な意義ある高校生活を送り、社会の一員として自らの存在意義を確立していく。

□ 今年度の重点目標

- (1) 地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。
多様化した現代社会に対応した、梓川高校の将来ビジョンの確立を図る。
導入5年目を迎えたコース制について、更なる充実と発展に努める。
地域との連携を密にすることにより、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開に努める。
- (2) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努める。
一時間一時間の授業の大切さを理解させる。
 - ② 習熟度授業・少人数制授業を実施するとともに、補習授業及び個別指導の充実を図る。
 - ③ 生徒一人一人の進路目標を早期に確立させ、その実現に向けての学習意欲の喚起に努める。
- (3) 基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。
 - ① 全職員の協力のもとに「身だしなみを整える、上下履きの区別をする、ゴミを散らかさない等」の基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ② 自主的な生徒会活動等を通じて、生徒自身が集団生活のマナーやルールの大切さを理解し、自ら実践できるように指導助言する。

□ 年度末評価

【総合評価】

将来ビジョンの確立のためにビジョン委員会を設定し、具体的な話し合いを進めてきたが、本年度は本校の現状の分析と、それに対する職員の意識の共有化を図る取組までに留まった。来年度は、今年度の取組の上に立ち、より早い時期に将来ビジョンを明確にする必要がある。またコース制についても短期的な視点での内容の充実を図るとともに、将来ビジョンに対応した長期的な視点からの検討を進める。

今年度も習熟度授業・少人数制授業を取り入れ、細やかな学習指導が行われてきたが、シラバスや授業アンケートはその有効性を感じるところまで至っていない。シラバスや授業アンケートに基づき、より効果的な実践ができるものとなるように、シラバスや授業アンケートについての検討を図る。

基本的生活習慣の確立を目指し、生徒会執行部と職員が協力して行った様々な取組は一定の成果を上げ、その取組を通じて生徒の自主性も高まった事は大いに評価できる。しかし、日常的な指導取組については、全職員が共通の問題意識を持ち、さらに充実したものになるような具体的実践を進めていく必要がある。

本校独自の事業として行った就職支援員制度など、今年度も生徒の進路実現に向けて効果的な取組を継続して行う事ができた。今後は、今までとは変化してきた生徒の進路希望にも対応できる進路指導計画及び具体的な実践の検討に努める。

今年度も、地域の皆さんから意見を頂く機会を設定し、多くの貴重なご意見を頂戴することができた。また、これらの機会に多くの教職員が出席し、地域の皆さんの生の声を聞く事で、本校の現状に対する共通認識が深まった。しかしその一方で、これらのご意見要望に対しての対応が不十分な部分もあり、来年度への課題となっている。

【本年度重点目標の評価】

| | |
|---|--|
| 本年度の重点目標 | |
| (1) 地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。 | |
| 本年度の成果と課題 | 次年度への改善策・向上策 |
| 梓川高校を支える会総会、学校評議員連絡会、教育懇談会等で、地元地域の皆さんのご意見を多くの教職員が直接お聞きする事で、地元地域の本校に対する評価を、職員間で共有する事ができた。ビジョン委員会を設置し、将来ビジョンの確立のための活動を始めたが、今年度はその前段である本校の現状の分析止まりになってしまい、コース制を巡る取組についても、本格的な議論には至らなかった。 | 左記の多くの会での地元地域の皆さんからのご意見に対して、より早くより効果的に対応できる職員体制を確立できるように検討を進める。今まで行ってきた様々な活動を見直し、より充実した内容になるように努める。 できるだけ早く本校の将来ビジョンを打ち出せるよう、全職員が意識を高め、活発な議論を進めていく。また、将来ビジョンの検討と並行する形で、現在のコース制更なるの充実を図る取組を進める。 |
| (2) 基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努め | |
| 本年度の成果と課題 | 次年度への改善策・向上策 |
| 習熟度別授業・少人数制授業等により、学習目標の確立は進んでいる。また、進路目標確立のための様々な取り組みや、就職支援制度も効果を上げている。しかし、シラバスについては、内容・配布方法等検討の余地がある。また、目的意識のある生徒と一部の無目的の生徒の学習や様々な進路行事への取り組みには大きな差がある事も否めない。 各教科の学習目標を生徒に理解させるとともに、学習目標及び進路目標の早期の確立とその目標実現のために必要な組織的な補習等の取組が求められ | シラバスや授業アンケートについては、その内容・配布方法等を充分精査し、生徒の学習活動に対して、より効果的なものになるように検討・研究を進める。また、1年次より体験的な学習などを充実させるとともに、生徒の進路希望の変化に対応した系統的な進路指導に取り組む。 特に向上心のある生徒の要望に応え、補習授業・個別指導の体制作りを行い、生徒の自己実現を促す。 授業改善に向け、同僚性を確保し、校内研修の充実を図る。 |
| (3) 基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。 | |
| 本年度の成果と課題 | 次年度への改善策・向上策 |
| 様々な価値基準を持った現在の生徒が抱える問題点に対応し、様々な学校行事・生徒会活動・進路指導等、あらゆる場面で生徒の自愛心・公共心を促す取り組みを進めてきた。特に生徒会執行部と生活指導係が協力して行ったキャンペーン活動は一定の成果を上げた。しかし、キャンペーン活動時以外での指導が徹底できず、基本的な生活習慣の確立や公共心を育むことができない生徒も存在する。 | 今年度、一定の成果を上げた生徒会執行部と生活指導係が協力して行った活動をさらに充実したものにし、生徒の自主性や公共心を高めることができる取組となるように努める。 基本的な生活習慣の確立を図るために、全職員が共通認識を持った上で、恒常的な指導、具体的な取組に努める。 |

【項目ごとの評価】

・「評価項目」の数字は、重点目標の項目番号。

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | 本年度の成果と課題 | 次年度への改善策・向上策 |
|------|------|--------------------|--|---|---|
| 教育活動 | 教育課程 | (1) コース制の充実 | コースの目的・内容・カリキュラムを研究・検討し、コース制の改善を図っているか。 | ビジョン委員会の検討を受けて、教育課程委員会が具体的なカリキュラムの研究・検討という流れの中で、ビジョン委員会の本校の現状に対する分析までで時間切れになってしまい、そこから先の検討が深まらず、教育課程委員会への具体的な問題提起をできずに終わった。 | ビジョン委員会での本校のビジョンに対する検討を深めるとともに、教育課程委員会等において、できるところから具体的なカリキュラムの見直しを進めていく。 |
| | | | 各コース履修者の70%が満足している(した)か。 | 年度末評価集約後に実施した生徒のアンケート結果から、不満を持っている生徒は約20%であるが、コース・学年によって若干のばらつきが見られる。アンケート結果の分析等を生かすためにも、アンケートの実施時期・質問項目等の精査が必要。 | アンケート結果の分析に基づき、ビジョン委員会とも連動しながら、教育課程委員会等での具体的な検討を進める。 |
| | 学習指導 | (2) 学習目標の確立 | シラバスに基づき、生徒に学習目標・内容を公表・説明し理解させることで、生徒の学習意欲の喚起につながっているか。 | シラバスの配布による、教育的な効果が具体的な形になって現れておらず、効果的な活用方法やシラバスそのものあり方をを含め、検討が必要。 | 生徒に対する効果的な配布方法や中身の充実等の検討を進める。 |
| | | (2) 授業改善 | 授業アンケートを実施し、基礎・基本の定着に向けた授業改善に取り組んだか。 | アンケートの結果についてどう対応するかが、個人または教科によってばらつきが見られる。アンケート実施の意義、結果の分析等、職員の意識統一を図る事が必要。 | 教務係・学習係・教科主任会等が連携をとり、アンケートの作成から結果の分析までをしっかりと進め、職員間の意識統一を図るようになる。 |
| 学習指導 | | (2) 個に応じた指導 | 生徒の要望等を把握し、補習授業及び個別指導の充実を図っているか。 | 進学者対応・学力補充者対応のいずれも、組織的なものになっておらず、個人あるいは教科への負担が大きくなっている。ここ数年間の状況に変化がない。 | 学校全体としての補習授業のあり方及び体制について、検討し、生徒の願いや希望に答えると同時に、基礎学力の向上に資する。 |
| | | (2) 「総合的な学習の時間」の充実 | 生徒が主体的に取り組める学習目標・年間計画を作成し、指導体制を確立させているか。また、新たな視点を取り込む努力をしているか。 | 3年生の「1日福祉体験」や1年次での新たな取り組みなど評価できる取り組みは多い。しかし、指導態勢等見直すべき課題が現れてきており、さらなる充実に向けての検討が必要。 | 全体的な見直しも含め、系統的・体系的な学習ができるような内容・指導体制の検討をする。 |

| | | | | | |
|------------------|----------------------------|---|---|--|---|
| 教 育 活 動 | 生 活 指 導 | (3) 基本的な生活習慣の確立 | 全職員が一致し、基本的な生活習慣の確立に向けた具体的な実践項目（身だしなみ・上下履き・ゴミ散らかし等への指導）を作成、実行しているか。 | 全職員による具体的な取り組みに対しての評価はできるが、全職員の意識が統一され、年間を通じての指導がなされたとは言い切れない。 | 全職員による具体的な取り組みはもちろん、全職員が共通した指導ができるように、意識の統一を図る。また、生徒の意識を変えさせる取り組みについても生活指導係だけでなく、生徒会・学年会等が連携をとって進めていく。 |
| | | 生徒相談体制の充実 | 生徒相談室係・スクールカウンセラー等と、職員間の連携を密にし、問題の解決に取り組んでいるか。 | 昨年に比べ、相談室を利用する生徒は減少したが、昨年までと同様に、相談室の体制は充実したものになっている。今後は取り扱いに注意する必要がある情報の共有化をいかに図っていくかが課題。 | 相談室が持つ情報を精査し、全職員が共有する必要がある情報については迅速な提供ができるような取り組みを検討する。 |
| | 進路指導 | (2) 進路目標の確立と自己実現 | 生徒一人一人の進路目標の早期確立に向けた年間計画を作成し、その実現のための指導をしているか。 高い目標を持ち、その実現のための向上心のある生徒の学習意欲に応える取組を行っているか。 | 大学出前講座などの新しい取り組みを含め、個々の取り組みは評価できる。しかし様々な新希望を持った生徒に対応する3年間を見通した進路指導計画については、検討が必要。 一部の職員による、個人的な指導にとどまっている。また、生徒の情報の共有化が不足している。 | 今までの様々な実践を改めて総括し、現在在籍している生徒の実情に対応する進路指導計画の策定を検討する。 教科や個人で対応するのではなく、進路室・学年等が連携し、学校全体としての補習体制の確保を検討する。 |
| ク ラ ブ 会 | (3) 自主性を育てる指導 | 生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・主権者意識を育てられているか。 | 今年度の生徒会活動は、役員の意識も高く、具体的な取り組みも見られた。しかし、生徒会活動以外の学級・学年等の活動の中では、まだまだ自主的な活動が不足している。 | 生徒会活動に限定することなく、学級や学年行事を通じ、生徒の自主的な活動への意識を高める検討をする。 | |
| 学 校 運 営 | 組 織 運 営 | (1) 学校自己評価の実施 | 学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善を図っているか。 | 学校自己評価の意義が徹底されておらず、年度末評価の提出数からも分かるように、自己評価への職員の意識は低下している。また、現在の自己評価のシステムも紗年目を迎え、見直しの必要がある。 | 全職員が積極的に関わられるような、自己評価システムの検討を早期に進める。 |
| | | (1) 情報集約 | 地域等への情報提供のための、諸活動の資料提供を積極的に行っているか。 | 各分掌から、情報係・教務係への情報提供はある程度できているが、積極的な活動とまでは言い切れない。また情報を処理、公開する側も校内に向けては不十分な場面が見られる。 | 職員一人一人が情報を提供しやすく、情報を処理する側も処理しやすいシステムを検討する。 |
| | | (1) 情報提供 | 本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。 | Eメール通信・地域回覧板等の情報の公開やHPの充実等、教育活動の情報や資料の公開・提供は進んでいるが、更なる充実を図る。 | 様々な機会や手段を使っての情報公開は進んでおり、今後は担当係の負担を減らすシステムの確立を検討する。 |
| | 地 域 と の 連 携 | (1) 意見聴取と反映 | 地域の声を聴取し、教育活動に反映しているか。 | 今年度から、支える会総会・学校評議員会・教育懇談会に原則全職員が出席したので、地域の声を聞くという部分においては成果があった。しかし、その声を教育活動に十分反映しているとは言えない。 | 来年度も、全職員参加の下で各会を実施し、それぞれの会での地域の声に対して速やかに対応策を検討できるシステムを構築する。 |
| | | (1) 教育力の活用 | 地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。 | 地元地域と限定すると、なかなか教育力を活用しているとは言えないが、多くの外部講師による授業や行事を行っている。今後は地元の教育力の活用を推進する計画が必要。 | 人材バンク制度の見直しなども含め、地元教育力の活用方法などの検討を進める。 |
| | 校 内 研 修 | (1) 授業・学習指導法の改善 | 研修会及び公開授業は、授業・学習指導法の改善を図るための研修となったか。 | 授業・学習指導法改善のための研修会は今年も実施できなかった。初任研対象も含め、公開授業にはあまり多くの参加者（校外外ともに）を得る事ができなかった。 | 多くの参加者を得られるような公開授業・研修会の実施に向けての検討を進める。 公開授業の情報公開を充実させる。 |
| | | (1) 生徒理解 | 生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。 | 参加した職員の評価は高いが、実施時期・内容・講師等の充実のための検討の余地がある。 | 今年度の体制を維持しつつ、より効果的な研修会の実施の検討をする。 |
| | 施 設 備 | (1) 学習環境の整備 | 生徒が生き生きと活動できる学習環境を整備しているか。 | 環境の整備は徐々に進んでいるが、日々の清掃活動に対する生徒の取り組みなどの課題も多い。 | 日常生活の中から清掃美化活動への意識を高める取り組みを検討する。 |